

Newsletter vol. 29

短期間でも充実の内容

短期語学研修に行こう

海外で学ぶスタイルは人により様々ですが、この頃では短期語学研修(いわゆる「短期留学」)を選択する学生が増えています。夏休み等を利用し渡航できる点が魅力で、様々な活動に忙しく1年間など長期の留学に踏み切ることができない学生の人気を集めています。

学習院大学では、そんな皆さんを後押しすべく、下記のようなプログラムや奨学金制度を用意しています。

学内の短期語学研修プログラム

短期語学研修に参加するには、民間の斡旋業者を利用するなど、いくつかの方法がありますが、学内で各学科等が主催しているプログラムを利用することもできます。

以下は平成23年度の一例です。4(後述)以外は、4~7月頃に募集があり、夏休み中に実施されました。

全学科対象のプログラム		
主催	研修先	国
1 外国語教育研究センター	フライブルク大学	ドイツ
2 東洋文化研究所	復旦大学	中国
3 国際交流センター	慶北大学校	韓国
4 国際交流センター	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア
学科学生対象のプログラム(他学部・学科学生を受け入れる研修も一部あり)		
5 経済学部	ワシントン大学	アメリカ
6 日本語日文学科	啓明大学校	韓国
7 英語英米文化学科	オックスフォードブルックス大学	イギリス
8 ドイツ語圏文化学科	ハイロイト大学	ドイツ

平成24年度以降、内容が変更される場合があるため、参加を検討する際には、当該年度の募集情報や実施予定を、掲示や各学科等の事務室で確認してください。

グローバル・キャンパス・オーストラリア ニューサウスウェールズ大学(上表の4)

学習院大学生のために特別にアレンジされた、ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア/本学との協定締結校)における語学研修プログラムが、平成23年度より始まりました。



全学生を対象とする英語研修プログラムとしては、現在学内唯一のもので、「夏休みは色々他の予定で忙しい!」という学生の声にも応え、実施時期を春休みに設定しています。

平成24年度以降も引き続き実施予定です。卒業までに1度は海外で学ぶ経験を持ちたいと考えている方の応募をお待ちしています!(秋頃募集開始予定)

■実施内容(平成23年度)

参加者数: 31名(法10、経4、文13、理4)

渡航期間: 平成24年2月22日~3月15日

滞在方法: ホームステイ(各人別々の家庭にホームステイ、1人部屋)

研修費用: 約362,000円

研修内容: 主にコミュニケーション力の向上を重視したクラス内容の他、

正規課程の授業聴講、各アクティビティへの参加、豪州桜友会(豪桜会/学習院同窓会「桜友会」のオーストラリア支部)主催の卒業生・現地学生との交流会など

その他: 本プログラムは、日本学生支援機構(JASSO)「平成23年度留学生交流支援制度(ショートビジット)」に採択されました。

参加学生から一言!

法学科4年 白岩 公司

単なる旅行ではできない経験ができればと思います、参加しました。

3週間と短い期間ですが、充実した研修となるよう、現地の人との交流を通じて、①日本とは異なる文化を知り、それにより自分の思考の幅を広げ、②相手が話している内容をネイティブのスピードで理解できるようになりたいと思っています。

また、滞在中はニューサウスウェールズ大学の近くの海に行ったり、観光名所に行ったりして、オーストラリアを堪能したいと思っています。

※取材は2月の出発前に行いました。



学習院大学短期語学研修奨学金

短期語学研修の人気の高まりを受け、平成22年度より始まった学内の奨学金制度です。夏休みに海外で短期語学研修に参加した学生を対象に、最大10万円を100名程度に給付しており、他大学と比較しても充実した内容となっています。

平成24年度は、夏頃、募集要項を発表する予定です。

■募集内容(平成23年度)

募集条件：夏季休業中、3週間以上の語学研修に参加した者
金額：10万円以内
募集人数：100名程度(平成23年度採用実績：120名)
募集時期：10月上旬予定(平成23年度：10月7日(金)申込締切)
選考方法：応募書類(語学研修の修了証、研修報告書など)を元に書類審査

平成23年度受給者より

物理学科3年 小林 愛花

平成23(2011)年8月、約1ヶ月間、ロンドンで短期語学研修に参加しました。そこで得た事を5つの点からお伝えします。



1. 語学力

この1ヶ月が英語学習のエンジンとなり、日常会話レベルの会話力がつき、TOEIC®で240点UPを達成しました。

「授業でのinput→放課後のロンドン観光で友人と会話しoutput」のサイクルを繰り返す事で、顕著に成長が感じられました。

2. 発言力

語学学校の授業で驚いたのが、間違った答えも堂々と発言し、何故間違えたのかを皆で議論するという流れが日常的に行なわれていた事です。日本では、間違い＝恥で発言しにくい空気ですが、間違えてこそ成長できると知ることができました。

3. グローバル感覚

実は研修中、日本でもニュースになったロンドンの暴動に遭遇しました。日本では感じる事のできない「移民受け入れ国が抱える、民族間の衝突、格差による心の叫び」を実感しました。今まで第三者として見ていた世界のニュースも当事者になる事で、リアルなものとなりました。

4. 世界中に友達

クラス14人中アジア人は私1人でした。異文化理解として授業内では各国の祝日や食事等についてディスカッションしました。1ヶ月で約100人の外国人の友達ができ、今でもFacebookでつながり、各国の食べ物を送り合ったりしています。

5. 環境の変化

帰国後は日々出会う人の人間層に変化がありました。留学経験者、外国人留学生などと日本でも英語を使い、グローバルライフを送っています。

英語がほぼ話せず、外国人の友人もない学生生活に不満を持っていた一年前の私からは、考えられないような自分がここにいます。「長期留学が難しい理系だからこそ、短期でなんとかものにしてやる!」という気持ちが、私を突き動かしてくれました。たった1ヶ月では何も変わらないと言う人もいますが、本人次第でいくらでも大きな経験にできます。別世界があなたを待っています。戻込みしてしまうでしょうが、その一歩を踏み出してみませんか?

学内での国際交流 バディ、活躍中!



▲左から園川 由紀子さん、ダヴィエン オディルさん、大島 ケヴィン 啓太さん

国際交流センターでは、平成23年度から「バディ(buddy)」制度を開始しました。

学習院大学に在学している外国人留学生の中には、言語や生活文化の違う日本で不慣れな生活を送っている方もいます。「バディ」になった日本人学生は、そんな彼らを日常的にサポートし、留学生生活をより充実したものとなるよう支えています。

学習院大学では、元々多くの日本人学生が、「国際交流センターボランティア」に登録し、センター主催イベントのお手伝いなどを通し、学内での国際交流を体験してきました。「バディ」はその「ボランティア」の一環として始まり、留学生と日本人学生の交流を、今後より濃いものにしていくことが期待されています。

それでは実際、バディとはどういうものなのでしょうか。今号では、フランス・リヨン第2大学からの留学生、ダヴィエン オディルさん(留学期間:平成23年9月～翌3月)と、そのバディであるフランス語圏文化学科3年 園川 由紀子さん、同2年 大島 ケヴィン 啓太さんに、お話を伺いました。

—まず、バディに応募しようと思ったきっかけを教えてください。

【大島】国際交流センターによく出入りしている友人に誘われたことがきっかけです。僕自身も海外生活が長く、日本に来た時はわからないことがたくさんあったので、日常生活で少しでも助けになればいいな、と思い応募しました。

協定留学プログラム派遣学生だより

史学科3年 藤井 萌



●左から二番目が藤井さん

今号では、平成23(2011)年度第2期協定留学プログラムで、ドイツ・ハイロイト大学へ留学した藤井 萌さんに寄稿いただきました。

1. はじめに

私がドイツ留学を志したのは、高校のときからドイツ語を習っていたことやドイツ史研究のためにドイツ語資料を読む語学力を身につけるためでした。ただ、元々語学力に苦手意識があったので、ドイツに向かう飛行機の中では不安で文字通りはち切れそうでした。どん底な気持ちから始まった私の留学生生活を簡単に報告いたします。

2. 音楽の街、バイロイト

現在私が留学しているところはドイツのバイロイトという都市です。ニュルンベルクから電車で一時間ほど東に行ったところにあり、チェコに比較的近い街です。作曲家のリヒャルト・ワーグナーやフランツ・リストが住んでいた音楽の街として知られていて、毎年夏には世界的に有名なワーグナー音楽祭が開かれます。しかし街の規模は小さく落ち着いた雰囲気です。また、ドイツの中で二番目に寒いと言われる街で冬場の冷え込み(マイナス17度!)は想像以上でした。

3. バイロイトでの生活

私が学んでいるバイロイト大学は1973年に設立された割と新しい大学で、哲学と経済が一緒になった学科やスポーツマネジメントなど面白い学部が揃っています。

住んでいるところは学生寮です。大学から大変近く、比較的新しい学生寮なので機能的できれいです。キッチン、シャワー、トイレが共同ですが、3人での共同なので混み合うことはあまりありません。他2人の同居人は中国人とドイツ人で、お互いにお土産をあげあったりして楽しい共同生活を送っています。中国人の同居人と一緒に自国の問題点に関して語り合ったのが寮生活でのいい思い出です。

ドイツ語の授業はドイツ語特有の言い回しやドイツ語にしかない言葉を取り

【園川】フランスに留学をしていた際に、現地の大学にバディ制度がありました。留学当初は、異国の地で右も左も分からず、バディの存在が私にとって大きな心の支えだったので、今度は私も日本に来ている留学生の力になればと考えました。

—バディとして行なった活動を教えてください。

【園川】キャンパス案内、履修相談、口座開設や携帯電話契約といった各種手続きのサポートなどです。

【大島】オディルさんは日本での留学は2度目で、日本の生活には慣れた様子でしたが、大学での履修に関しては様々な質問を受けました。また、出来るだけ日本の文化や習慣に触れる機会を作るように2人とも心がけています。

—普段はどのように過ごしているのですか?

【園川】大学内で一緒に昼食をとったり、他の留学生も誘ってパーティーをしたり、休みの日にカラオケへ行ったり。12月に開いた鍋パーティーは、プレゼント交換もして、思い出に残るイベントになりました。本当に日本人の友人と変わらない付き合いをしています。

【オディル】大学では、昼食以外にも授業の休み時間など、ちょっとした時間を一緒に過ごしています。宿題を手伝ってもらうことも多いです。外では、居酒屋に連れて行ってもらったりもしました。

【大島】普段は大学や日常生活、お互いの国のことについて話しています。日本語を勉強しているオディルさんのために、出来るだけ日本語で話すように気をつけています。説明が通じにくい時はフランス語で話すこともあります。

—バディをしてもらって、よかったことは何ですか?

【オディル】たくさんありますが、例えば、携帯電話を契約するとき、由紀子ちゃんと一緒に渋谷の携帯電話ショップへ行ってもらいました。書類の作成など、漢字の知識が必要な場面で、彼女が手伝ってくれました。携帯を持っていないと日本での生活は大変なので、本当に助かりました。

また、手伝ってもらうことだけではなく、一緒によく話したり、パーティーをしたり



▲友人宅での鍋パーティ

といったことが、とても嬉しかったです。

—バディをして、学生生活にどんな変化がありましたか?

【大島】日本人の学生とは違った考え方や価値観に触れる経験は貴重だと感じました。また、留学生は日本語の学習の仕方にもそれぞれ違いがあり、その様子を見るのも言語を学ぶ上でとても参考になりました。このバディ制度をもっと多くの学生に知ってもらいたいと思います。

【園川】日本の文化を紹介していく上で、普段あまり考えないような日本のことを見つめ直す機会が多かったように感じます。バディを通して、多くの人に会えることができ、大学生生活がより充実したものとなりました。

—最後に、外国の学生と付き合う上で、心がけていることを教えてください。

【オディル】日本にいる時間を大切に、友情を育て、共に学び、遊び、いい思い出をたくさん残すことです。

【大島】日本の生活に慣れている僕たちには当たり前のことを、慣れない留学生に分かりやすく説明するように、特に心がけています。また、学校の授業では学べない、日常でよく使う言葉を教えてあげるのも為になると思います。日本語が間違ってる時は、なるべく直してあげて、説明も加えるようにしています。

【園川】外国人だからと言って、特別扱いするのではなく、自然に私たちの中に溶け込めるような環境を作ってあげることが大切だと思っています。そのためには、まず相手を理解しなければなりません。彼らとたくさん話をし、丁寧に接することで、お互いの距離を縮めています。

—信頼関係を築くのは日本人同士でもなかなか難しいものです。皆さんが互いに親身になり、能動的に学び合おうとする姿勢が、バディをより強固なものにしているのです。本日はありがとうございました。

バディの募集は、留学生の留学開始時期などに合わせ、「国際交流センターボランティア」登録者に対し、当センターからG-Portなどを通じて行なっています。今回お話を伺った日本人学生の2人は、たまたまフランス語に明るい方々でしたが、必ずしも留学生の話す言語に精通している必要はありません。留学生と真摯に向き合い、また自らもそこから何かを学び取ろうとするのできる皆さんの応募をお待ちしています。

※「国際交流センターボランティア」登録は、国際交流センター(中央教育研究棟2階)までお越し下さい。なお、1年生は、大学に慣れてから携わっていただく意味で、2学期から登録を受け付けます。

は学生が主体で授業をすすめています。その積極的に自分の知識を深めようと取り組む姿勢と意識の高さはいつも見習わなければ、と思われまます。二つ目は日本を見直すことができたことです。日本製品がいかに便利で安く優れていると評価されていて、東京がいかに世界的に注目されている都市だとわかった一方、日本は文化の面でまだまだ海外に知られていないように思いました(メキシコ人にニンジャは中国でしょ?と言われました)。また、海外の人が福島原子力発電所の問題にとっても関心があることにとっても驚きました。ラジオやテレビでも毎日のようにフクシマの単語が流れます。友達と話す時もフクシマの話題になることが多いです。秋に大学の日本語の先生と協力して福島へ寄付するための折り紙バザーを行ないましたが、そこにも多くの人が訪れてくれました。

5. おわりに

この留学を、色々な理由をつけて(語学力や金銭面など)あきらめないで本当に良かったと思います。英語もドイツ語も拙い私ですが、言葉の問題を乗り越えて仲良くしてくれる、海外の愉快で素晴らしい友達をたくさん作ることができたからです。そしてドイツで生活していて、やっぱり日本とドイツが大好きだと気がつきました。帰国することを考えると、日本が恋しいと思うと同時に今からドイツシックにかかっています(笑)。

【左】折り紙バザーをしたときの写真です。右端はドイツ語の先生で、多分歴代の学習院生がお世話になっているのではないのでしょうか?日本人びいきのハーニッシュ先生です。【右】バイロイトのクリスマスマーケットの様子です。



平成25(2013)年度 第1期協定留学プログラム 派遣学生の募集について

協定留学プログラム派遣学生の募集を4月下旬頃から開始します。派遣先は、韓国・タイ・オーストラリア・ニュージーランドを予定しています。留学期間は平成25(2013)年4月～翌年3月です。募集要項は掲示・当センターホームページ・G-Portなどで公示する予定です。

なお、当センターにて、本プログラムにより派遣した先輩方の留学体験記を閲覧できますので、応募にあたってはそちらも参考して下さい。

平成24(2012)年度第1期派遣学生から

私にとって留学は、高校からの夢でした。ただ精神的、経済的に不安があり、ずっと機会を逃してきました。もし私と同じ理由で留学を躊躇している人がいるとしたら、協定留学プログラムに応募することをお勧めします。

不安があっても、各種のオリエンテーションを始め、国際交流センターの職員の方々がしっかりサポートしてくれます。留学経験者の先輩もいるので、小さなことも相談出来て心強いです。また、一般の業者を仲介するよりも経済的な負担が少なく済み、「学習院大学海外留学奨学金」にも応募できます。

厳しい審査があるのは事実ですが、早くからTOEFL®やIELTS™に向け勉強し、しっかり準備をすれば絶対大丈夫です。是非応募に踏み切ってみて下さい。
(英語英米文化学科3年 江尻 碧)



【平成24(2012)年度第1期の協定留学プログラムによる派遣学生】
留学期間:平成24(2012)年4月～翌年3月

派遣先大学	派遣学生
ウェリントン・ヴィクトリア大学 (ニュージーランド)	政治学科3年 北村 友美
ウェリントン・ヴィクトリア大学 (ニュージーランド)	英語英米文化学科3年 江尻 碧

海外からの協定留学生のご紹介

平成24年度4月より学習院大学での留学を開始する、海外の協定校からの留学生をご紹介します。

協定校	氏名	学習院での所属	留学期間
大学間協定			
ウェリントン・ヴィクトリア大学(ニュージーランド)	PURCELL Alexander Charles Chalmers	日本語日本文学科	1年間
リヨン第二大学(フランス)	GILSON Théo Victor	政治学研究科	半年間
学部間協定			
ワシントン大学(アメリカ)	PRATT Keith Fushigi	経済学科	半年間
ワシントン大学(アメリカ)	TIEDEMANN Sarah Elizabeth	経済学科	半年間
東呉大学(台湾)	洪 立如	日本語日本文学科	半年間
東呉大学(台湾)	李 麗嬌	日本語日本文学科	半年間
パリ第七大学(フランス)	TYCLÉ Chayin	日本語日本文学科	半年間

海外留学のための奨学金について

*各募集内容や応募条件等詳細については、当センターホームページなどで確認して下さい。

本学では、留学に伴う経済的負担を軽減し、少しでも多くの学生に留学を経験してもらうことを目的として、「学習院大学海外留学奨学金・奨励金」という制度を設けています。

■学習院大学海外留学奨学金

応募条件: 「留学願」が承認されている者又は承認されることが見込まれる者

奨学金額: 1名につき50万円以内(給付)

募集人数: 年20名程度(平成23年度採用実績18名)

募集時期: 年2回(12・6月)(平成23年度:平成22年12月2日(木)、平成23年6月10日(金)申込締切)

■学習院大学海外留学奨励金

給付条件: 「海外留学奨学金」受給者のうち、特に優秀な者

奨励金額: 1名につき10万円以内(給付)

採用人数: 年10名程度(平成23年度採用実績10名)

平成24年度に留学を開始する皆さんを対象とした第2回目の募集(上記「選考時期」6月の回)については、募集要項を5月中旬に掲示・当センターホームページ・G-Portなどで公示する予定です(第1回目の募集は終了しました)。

このほか、留学関係の奨学金等については、以下のようなものがあります。

■学習院大学海外短期語学研修奨学金

⇒今号の2面で紹介しています。

■学習院大学海外ボランティア活動奨励金

募集条件: 夏季休業中、海外においてNGO、NPO等の団体でボランティア活動を行なった者

金額: 10万円以内

募集人数: 10名程度(平成23年度年度採用実績: 10名)

募集時期: 9月下旬予定(平成23年度: 9月30日(金)申込締切)

平成23年度受給者のうち、以下の3名に特別賞を授与しました。

受賞者	活動国
政治学科1年 山崎 みず穂	ベトナム
経営学科3年 井上 聡	フィリピン
哲学科4年 園城 菫子	ウガンダ

■大学院学生国外研究発表援助

募集条件: 国外における研究集会で、発表を行なう大学院生(共同研究を含む)

金額: 10万円以内

募集人数: 20名程度(平成23年度年度採用実績: 12名)

募集時期: 12月上旬予定(平成23年度: 12月1日(木)申込締切)

【留学中の学費について】

必要な学内手続きをとれば、留学期間中の本学の授業料・維持費は半額に減免されます。また、協定留学プログラムによる留学の場合は、ほとんどの派遣先で授業料が免除されます。

留学クラブ、留学フェアのお知らせ

当センターでは、留学したい人、留学する人、留学した人が自由に交流できる場として「留学クラブ」、「留学フェア」を定期的で開催しています。

次回の開催については、詳細が決まり次第、当センターホームページやG-Port、掲示などでお知らせしますので、留学に興味のある方は是非お越し下さい!



Newsletter vol.29

April 1, 2012

発行日/2012年4月1日

編集・発行/学習院大学国際交流センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL.03-5992-1024 FAX.03-5992-1025

http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/

(「学習院 CIE」などで検索してもヒットします)

※表紙の写真/学校法人学習院 広報課

※今号掲載の学生の所属年次などは、平成23年度当時のものです。

●編集後記● 私は学生の頃、「中国人と仲良くなりたい!」と、留学生の集まるラウンジに足を運ぶなどしてみたことがあります。思い描いた楽しい交流を継続するのは中々難しいことでした。今回パディの記事で3人と話し、あのときの自分に足りなかったのは、「自分らしく振舞うこと」だったのかもしれない、と改めて感じています。外国人を相手に、日本人と同じように友好関係を築いていける人もいます。きっと多くの皆さんも初めは肩に力が入ってしまうことでしょう。そんなときは、無理に愛想笑いをするよりも、「日本人の、いつもの私」で接してみたいかがでしょうか?

【平成24年度国際交流センター運営委員】

所長	水野 謙	(法学部)
運営委員	森田 朗	(法学部)
//	熊井 信弘	(経済学部)
//	村野 良子	(文学部)
//	馬淵 一誠	(理学部)
//	高橋 利宏	(副学長)
//	桂木 隆夫	(学生センター所長)
//	宮澤 文玄	(国際交流センター課長)